

ご あ い さ つ

常 務 理 事 西 村 博

わが協会は各種の公害問題を解決するための社会的要請にこたえ誕生してから第五年目を迎えました。特に昨年はわが協会にとっては一般社会の不況下でありながら劃期的な年でありました。即ち昭和46年10月発足以来、福田学園の故福田昌子理事長の御好意により東和大学の一部を借用して業務を推進してきましたが、いろいろの環境問題が社会問題としていよいよ活発となるに従って、それ等の要請に対処するためには大変手狭となりました。それで協会独自の本格的分析研究室の必要性が痛切に感じられるようになりましたので、この建設につき各方面に御理解、御協力を求め、特に財団法人日本船舶振興会の御支援により福岡市東区香椎の環境佳良な地点を選び昭和49年10月より研究棟の建築工事に着手し昨年5月中旬完成し移転を行いました。

設備面では事務室、管理室、一般分析室、細菌分析室、悪臭分析室、窒素系分析室、汎用測定機器室、有機物分析室、大気分析室、処理技術室、測定機器室、冷凍恒温器室及び電源室等に分割され、斬新な測定機器をはじめいろいろの完備した諸設備を整え、業務の推進を行っているのです。

更に最近放射性物質の利用が自然科学研究分野、医療方面或いは産業界に盛となりまして、特にエネルギー源として大容量の原子力発電の開発が全国的にすすめられるようになりました。従ってそれらに関係するいろいろの放射性物質による環境汚染問題が強く叫ばれる傾向にあるため、わが協会の性格上率先して放射性物質による公害の防止、並に知識の普及につとめるため環境放射能分析室の建設を計画しました。

これまた財団法人日本船舶振興会その他の御協力のもとに同一構内に環境放射能分析室の建設工事を昨年7月より開始し本年2月完成致しました。測定機器も低バックグランド液体シンチレーションカウンター、低バックグランド自動測定装置外各種の斬新な測定機器を整備しています。

なお業務面では水質、土質、大気、ばいじん等の分析調査は勿論、昨年より悪臭、騒音並に排水処理技術方面への業務の拡大を行っています。

一方建設省はじめ官公庁よりのダム、河川等の富栄養化、汚濁防止対策基礎特別調査も活発となりました。

また特に最近かつての高度経済成長期の環境破壊の苦しい経験を繰り返さないため、今後の港湾埋立、土地開発等に対する環境アセスメントの必要性が大きくクローズアップして政府でも環境アセスメントを法制化するため中央公害対策審議会にて検討中ではありますが、これは環境改善、あるいは環境破壊、汚染等を未然に防止し社会の浄化、即ち人類の将来のため誠に慶賀にたえません。

かかる社会情勢の中で環境アセスメントの分野でもわが協会は御高承の通りの独特の権威ある研究陣容にて九州地域内の要請にこたえ数々の実績をあげ更に積極的に活動中であります。

以上近況御報告申し上げますとともに一段と私らの責任の重大性を自覚し全員一致協力して社会のために奉仕いたしたいと思っていますから何卒よろしく御指導、御鞭撻を御願ひ申し上げます。